

図書館 だより

4月号 (2019年4月19日発行)

入学・進学おめでとうございます!

新学期がはじまり、忙しい毎日を過ごしている人も多いのではないのでしょうか。今年は開花がゆっくりだった桜の木も、葉桜になってきましたね。木々はまた来年花を咲かせるために新芽を伸ばし、青々とした葉を茂らせます。

伸び行くあなたたちをサポートする豊かな土壌になるべく、図書館もさらなる充実を目指します。よい1年になりますように。



☆.....☆.....☆ おすすめの本 ☆.....☆.....☆

2019年本屋大賞第1位!
心あたたまる家族の物語

『そして、バトンは渡された』

瀬尾 まいこ著 文藝春秋



17歳の優子の家庭環境はかなり複雑。3人の父親と2人の母をもち、苗字は4回も変わっています。しかし、この小説は驚くほどさわやかです。立場や表現は違っても、優子はいつも愛情をたくさんもらい、それに応えて素直にのびのびと成長してゆきます。

この作品の醍醐味はなんと言っても今現在一緒に暮らしている森宮さんと優子の掛け合い。普通の親子とはちょっと違うけれど、だからこそ、愛情をいっぱい表現して親の役割を果たそうとする森宮さんの姿に、くすぐったいような、温かい気持ちになりました。ぎこちなくも寄り添いながら懸命に親子になろうとする二人に血のつながりを越えた思いやりを感じ、心が洗われます。色々な経験をしてきた優子の、「今より大事な過去はない」という言葉が胸に響きます。

◆2019年本屋大賞受賞作◆

大賞	そして、バトンは渡された	瀬尾まいこ	文藝春秋	6位	さざなみによる	木皿泉	河出書房新社
2位	ひと	小野寺史宜	祥伝社	7位	愛なき世界	三浦しをん	中央公論新社
3位	ベルリンは晴れているか	深緑野分	筑摩書房	8位	ひとつむぎの手	知念実希人	
4位	熱帯	森見登美彦	文藝春秋	9位	火のないところに煙は	芦沢央	新潮社
5位	ある男	平野啓一郎	文藝春秋	10位	フーガはユーガ	伊坂幸太郎	実業之日本社

本屋大賞とは.....

本屋大賞は年に一度、全国の書店員の投票により、過去一年の間に出版された本のなかでいちばん売りたい本を決定するものです。過去には、**2017年恩田陸さんの『蜜蜂と遠雷』**、**2018年に辻村深月さんの『かがみの孤城』**が大賞に選ばれました。

本屋大賞<<https://www.hontai.or.jp/>>

◆今読みたい！話題の本！◆

●現代語訳論語と算盤

渋沢栄一 守屋淳訳 ちくま新書

2024年から使用される一万円札の新しい顔となった渋沢栄一。日本実業界の父と呼ばれる彼のエッセンスが詰まった名著を、この機会に吸収してみては？根尾昂選手や大谷翔平選手が読んでいることでも話題になりました。

●彼女は頭が悪いから

姫野カオルコ 文藝春秋

実際に起きた東大生5人による事件をモデルに描かれた小説です。

4月12日に開かれた東京大学の入学式の祝辞で上野千鶴子氏が本書について言及したことにより、話題を呼んでいます。

【これもおすすめ！】

●情報生産者になる 上野千鶴子

◆新着図書一覧◆



- 知の体力 永田和宏 新潮社002ナ
- ふたつの日本「移民国家」の建前と現実 望月優大 講談社 334モ
- すごい言い訳！二股疑惑をかけられた龍之介、税を誤魔化そうとした漱石 中川越 910ナ
- 読むよむ書く 重松清 幻戯書房 019シ
- 胎児のはなし 増崎英明 ミシマ社 495サ
- 源氏物語四 玉鬘—真木柱 岩波書店 913ヤ
- オリジン 上・中・下 ダン・ブラウン KADOKAWA 933フ
- 麦本三步の好きなもの 住野よる 幻冬舎 913ス
- 魔眼の匣の殺人 今村昌弘 東京創元社 913イ



◆大型連休(GW)中の本の貸出について◆

今年のゴールデンウィークは10連休！いよいよ平成から令和に年号が変わります。平成最後に読む一冊、新しい時代に読む最初の一冊はどれにしましょうか？

- 貸出期間4/22(月)~5/7(火)
- 貸出冊数 5冊まで

GW中図書館は閉館します。本の貸出は4/25(木)までに処理を済ませてください。

期限が過ぎた本、そのままになっていませんか？
本を借りてまだ返していない人は、4月中にかならず返却してください。

